

【高等学校用】

令和3年度学校評価 結果

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀県立小城高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度は、新型コロナウイルス感染症のために、授業、行事、部活動大会等の制限または中止を余儀なくされたが、保護者のアンケートでは、本校の教育諸活動に肯定的な評価を得た。特に、教職員のICTの利活用の評価が上昇した。</li> <li>・昨年まで2年間、本校は「学力向上」研究指定校として、授業改善及びキャリア・カウンセリングの視点を取り入れた対話の実現を柱としたキャリア教育の充実に取り組んだ。特に授業改善に向けた研究授業は、教職員の資質向上に繋がった。</li> <li>・生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談の充実を図った。常勤体制を取り、SC及び外部機関と連携を取りながら、適切な取組を実践することができた。今年度以降も多様化する生徒の指導・支援にきめ細やかな対応</li> </ul>
2 学校教育目標	本校の校訓である「創意(Originality)」「挑戦(Great Challenge)」「誠実(Integrity)」の実践を推奨し、豊かな人間性を育む。「文武一途」を奨励し、総合力としての「生き抜く力」を育成する。社会の変化とともに、次代を担う生徒に求められる資質や能力も変わる中で、新しい教育の指針に盛り込まれた改革の流れに敏感に捉え、進んで「教育イノベーション」に取り組んでいく。
3 本年度の重点目標	力の育成 「豊かな人間性の育成」(徳育)：情報モラル教育及び「いじめ」の防止対策の推進、自己肯定感や自己有用感を高める体験活動の推奨、人権・同和教育の充実 「健康・体力の育成」(体育)：健康の自己管理能力の育成、部活動の活性化

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目	重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
	評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○基礎学力の定着及び進路実現を見据えた学習指導を行う。  ○キャリア教育の充実 ・生徒の進路志望の実現	・授業改善を行い、各教科の半数程度の教員が年1回は研究授業を行う。 ・ICT活用率を100%にする。  ・個人面談を年3回以上行い、自らの生き方を考えさせ、興味・関心、能力、適性に基づいて主体的に進路を決定できる能力の育成を図る。 ・国立大65名以上、難関4年制大学5名以上の合格を実現する。	・AL的な視点(主体的な学び、対話的な学び、深い学び)に立った指導法を研究し、授業改善に取り組む。 ・ICT活用教材「Classi」等を活用して生徒の学習時間等の実態把握に努め、個別に指導を行う。  ・教職員はキャリア・カウンセリング・マインドとスキルを共有を図り、個人面談等を行う。 ・総合的な探究の時間、キャリア教育講演会等の行事を通して、生のキャリアデザイン力の育成を図る。 ・学習および進路指導の実現のために、細やかな個人面談を行う。また、学年の教科担任者進路会議や3年生の進路検討会を実施し、現状や課題、指導指針の共有を図る。	A	・研究授業の実施率はほぼ100%に近づいている。 ・「classi」を利用した学習時間調査、教科や学年等への連絡は、随時行われており、ほとんどの教職員がITCを利活用している。	A	・コロナ禍の影響によりICT活用による学習が定着しつつある。 ・生徒も先生も「新しい生活様式」の中でも「新しい学習方法」が定着することに期待する。	道路指導主事	
				A	・個人面談を3回以上(1学期、2学期には、面談週間も実施した。)実施できた。 ・各学年において充実した進路検討会、教科担当進路会議を実施できた。 ・3年生の進路について、本人および保護者との丁寧な面談ができ、適切な進路選択が実現できている。国立大学の推薦・総合型選抜の合格者は25名である。	B	・個人面談はよくできているようだ。 ・生徒の進路指導について、「どこの学校に行きたいか」ではなく、「どんな仕事につきたいか」を考えさせ、「そのためにはどこの学校にいったら良いか」といった指導を進めることを希望する。	道路指導主事	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動  ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生徒や職員が人権感覚を身に付けるための、研修機会を年2回以上確保する。  ○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員の割合を70%以上にする。	・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施する ・人権・同和教育講演会を実施する  ・いじめアンケートを実施し、正確な実態把握に努める。 ・全校集会や学年集会などで、いじめや差別や偏見につながるような行為は許されないことを訴え、道徳心の育成に努める。 ・情報モラルに関する講演会を行う。	A	・人権学習・進路保障HR活動を全てのクラスで実施できた。 ・人権・同和教育講演会を実施できた。 ・職員向けの同和問題研修会を実施できた。	A	・人権学習はできている。 ・成人年齢が18歳に引き下げられるので、成人に対しての指導を充実させて欲しい。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者	
				B	・学年団や教育相談部などを中心に、連携して実態把握や迅速な対応に努めることができた。 ・情報モラルに関する講演会を6月9日にリモートにて実施して、啓発活動を行うことができた。	B	・成果目標を達成できたかどうか不明。 ・成果指標に対する具体的な数値が欲しい。	(主)生徒指導主事 各学年主任 情報主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ○感染症対策として免疫力を高める食事の摂取の推進	●「健康に食事は大切である」と考える生徒95%以上(高2対象) ○朝食を食べて登校する生徒90%以上	・生活状況調査、食に関する意識調査を実施する。 ・保健だよりを発行する。 ・保護者への個別の連絡をする。	A	・9月に「キャリア教育特別講演会」及び「佐賀を誇りに思う講演会」を実施した。「キャリア教育特別講演会」については、6企業の方を招聘し、対面とオンラインによる講演を実施した。また、「佐賀を誇りに思う講演会」は97%の生徒が郷土の価値を再認識できたと回答した。また、キャリア教育に関するアンケートにおいて、働くことの意義や進路について考えることができたと回答した生徒が80%を超えた。	A	・佐賀県立小城高校卒業生として社会に出たとき、地元を愛する心をもってもらいたい。 ・生徒たちの中では、竹明かり活動への参加など積極的に関心を盛り上げようとする気持ちがうれしい。	研修主任	
				B	・1・2年生を対象とした朝食に関する調査では「自宅毎日食べる」生徒が80.9%であった。「毎日学校で食べる」生徒が8.5%、「毎日学校で食べる」生徒が5.5%であったため、「朝食をとって登校する」という点では90%に近い結果であったが超えることはできなかった。この結果を保健だより等で周知し、改善を図りたい。	B	・進学や就職で親元を離れたら、朝食を摂らない人たちが増えると思う。朝食を摂ることは仕事をすすませる上で大切なことなので、今のうちに朝食を摂る習慣をしっかりとつけてほしい。	保健指導主事	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○各種休暇を取得するように奨励し、心身の疲労による休職者を出さない。	・定時退勤日の設定、学校開庁日の設定、部活動休業日の設定をする。 ・週休日の出張・振休の促進をする。 ・業務、各種の事務に取り組み。 ・衛生委員会などで情報を共有し、気になる職員には個別に対応する。	B	・昨年度より各月の平均時間外勤務時間は、減少している。80時間以上の超過勤務になった者が毎月数名いる。 ・進捗ができていないが、慣習化している。 ・気になる職員については、衛生委員会情報収集し対応してきたが、休職者が出たのは残念であった。	B	・「生徒のためにこんなに頑張っている」という意識はどこかにあるので、時間外勤務は中々減少しないのではないか。 ・メリハリのある働き方を校内全体で共有する雰囲気作りを力を入れてほしい。	管理職	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		校関係者評価		主な担当者	
	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○インクルーシブ教育の充実 ○チーム支援体制の強化 ○早期発見、早期対応の徹底	○合理的配慮について、必要な生徒及び保護者の理解を100%にする。 ○支援が必要な生徒は必ずチームで対応する。 ○2次障害を発生する生徒をなくす。	・生徒及び保護者との面談。適切なSCの活用。合理的配慮の実施及び評価の徹底。 ・適切なタイミングで支援会議を開催する。 ・毎月教育相談会議を開催して、情報共有を行う。	B	・SCの活用は、適切に行うことが出来た。 ・合理的配慮の実施及び評価の徹底が出来た。 ・支援会議を開催する時期を早める必要がある。 ・毎月教育相談会議を開催して、情報共有を行った。	B	・特別支援教育には十分な時間と体力が必要だと思うので、これらの業務に携わるのに時間外勤務も増えていくのではないだろうか。担任任せではなく、チームでの取組を活発化させたい。	教育相談部主任	
●…県共通 ○…学校独自 ●…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のために頑張っているという意識のために時間外労働が減らないという現実がある。なお一層職員の意識を改革し、時間外労働の削減につとめていかなければならない。</li> <li>・一部具体的な成果指標が結果に示されていないものがある。客観的に評価できるように評価指標を定める時点から、最終的に何によって評価を判断していくのかについてよく考えて定める必要がある。</li> <li>・生徒の安全安心な学校生活の確保のために、教育相談を充実させ、sc及び外部機関と連携を取りながら、適切な取組を実践することができた。次年度以降も全職員が一丸となって連携を強化し、多様化する生徒の指導・支援にきめ細やかな対応を推進していく。</li> </ul>								